

第3回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録（要旨）

【日 時】 令和6年8月6日（火） 8：52～9：34

【場 所】 出雲市役所 3階 市民応接室

【出席者】 委 員：各市町教育委員会代表4名、保護者等代表3名

代表調査員：1名

事 務 局：出雲市教育委員会学校教育課 次長・主査・課長補佐

事務局：ちょっと早いですけれども、本日、お一人の委員からご欠席という連絡いただいていますので、時間前でございますが、ただいまより、第3回出雲採択地区教科用図書採択協議会を開催いたします。なお、先ほど報告しましたようにお一人、本日欠席でございますけれども、規約第10条の規定によりまして、本協議会は成立しておりますことをご報告させていただきます。それでは、まず初めに、杉谷会長がごあいさつ申し上げます。

会長あいさつ

会 長：おはようございます。

早朝より、お出かけいただきまして、ありがとうございました。

本日、第3回目の出雲採択地区教科用図書採択協議会を開催させていただきました。

前回、2回目の会議で選定すべき教科書の採択ということが、全ての教科に対してできませんで、改めて今日、ご案内をさせていただきました。

特に保護者委員の皆様には、お仕事もあった中で本日ご都合をつけていただきまして、本当に申し訳なく思いますし、ご出席いただきましてありがとうございました。

前回決定できませんでした、教科、英語につきまして、調査員の皆さんに再度お集まりいただいて、調査研究を行っていただき、本日、代表調査員の方から、その結果について説明をいただき、それを踏まえた協議とさせていただきたいと思っております。

出雲地区の子どもたちにとりまして、最もよい教科書を総合的に判断していくという会議でございますので、今日の説明をお聞きいただきまして、忌憚のないご意見いただきながら、選定をさせていただきたいと思っております。

どうぞ、ご協力の方よろしくお願いいたします。

協 議

事務局：ありがとうございました。

それでは、まず、資料の確認でございますけれども、協議会の冊子と、あとは選定に必要な資料ということでお配りしておりますけれども、よろしいでしょうか。

事務局：はい、ありがとうございます。

では、本日の日程の方ご説明させていただきますけれども、この後、英語の研究調査結果につきまして、代表調査員の方から説明を受けた後、選定の協議を行いたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは協議に入りたいと思いますが、以降の進行は会長の方でお願いいたします。

調査研究結果の報告

会 長：ここから、私の方で進行させていただきます。

それでは協議事項の調査研究結果に移りたいと思います。

先ほど事務局の方から説明がありましたように、今回、英語1種目につきまして、報告をいただきます。

代表調査員から報告を受け、そのあと、質疑を行いたいと思いますのでよろしくお願いします。

英 語

会 長：それでは、代表調査員の方からご報告をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

調査員：失礼します、よろしくお願いします。

それでは、私の方から、先日の調査委員会の結果を報告させていただきたいと思っております。

前回のところで、どちらに絞るかというところであったんですけども、まず結論から言いますと、3人の意見を総合しますと、Aの方がいいのではないかという意見で一致しましたので、まずそのように報告をさせていただきます。

ここからはまず、Iの方、簡単に調査をした内容を報告をさせていただきたいと思います。

まず、Iの方の教科書を見ていただきたいと思いますけれども、お手元にですね、3年生ですね、I社の3年生、前回お話をさせていただいたところとも多少かぶるところがあると思いますけれども、ご容赦いただきたいと思います。

まず、3番の興味・関心への配慮等ということで、単元のストーリー、これ、1年生からずっとストーリー性があるものでして、大体4人の登場人物が、ずっとその学年を追うごとに成長していくというようなスタイルで書かれておりまして、中学生が読んでも読みやすく、その続きがどうなるかなという、ちょっと興味を持たせるようなストーリーになっておりますので、そういうところは、生徒の興味関心を聞くところではないかなと思っております。

それから、最近の教科書ですので、デジタルコンテンツですね、QRコード等を読み込んで、デジタルコンテンツが見られるようになっておりますが、例えば、ユニット2の21ページをお開きいただきますと、右上の方にQRコードがございますので、これを読み込むと、この教科書の20ページの本文が、音読されます、範読というか、模範で、朗読されることになります。

さらに、これスピードが、自分で2倍から0.5倍まで、ちょっと早く読んだり、或いは、ちょっと遅く読んだりっていうことも可能ですので、学習者の力量に合ったような形で、自分でも学習ができるのではないかなというふうに思っております。

それから、4番の教科の特性、地域の実態や課題への適合等ですが、後ろの方に、レッツトークという帯教材としてあるところがございますので、そちらもご覧いただけるといいんじゃないかなと思っております。ちょっと紙の質が違うところで、この半分ぐらいの大きさのレッツトークというところがございます。

これページで言うと、128ページと129ページの間にございます。

そこを開いていただきますと、This Is Meとかって質問が書いてあります。

これをペアで、1人が質問して、1人が答えるみたいな活動というのは大体、例えば授業の最初に5分間でコミュニケーション活動してみましようねということで相手が質問して、それに対して答え、今日は例えば1番でやりましようとか、じゃあ次の日は2番でやりましようとか、すでに習った既習の文法事項を利用して、こういう即興性のある、最近のことですので、こういう即興性のあるものも身につけるということになっておりますので、そういったところも工夫が施してあります。これが各単元ごとに、まとまって作っておりますので、そういうところもあります。

それから、その次の129ページからの英語の学び方ガイドというところにもかなり詳しく、丁寧に書いてありますので、例えば130ページでいきますと、単語の学び方、また単語でどのように学んでいくといいですかとか、131ページには、辞書で単語を調べたいときには、下の方まで読

んでみるようにしましょうとか、そういうような勉強についての、学習についてのアドバイスが、教科書に載っておりますので、これも家で自分で復習をしてみたいとか、或いは、1人で個別に勉強するというようなときに、こういうところを役立てることができるのではないかなというふうに考えております。

それから、6番のその他のところですが、新たに加えたところではありますけども、コミュニケーション重視というふうになっておりまして、特に話すこと書くことにおいて、自分のことを伝える活動が教科書に組み込まれているということで、これも例えばユニット1のパート1、21ページをご覧ください。

21ページを開きますと、そこの真ん中から下の方に、スピーク或いはライトというような活動が盛り込まれておりますので、こういうところを教科書を進めることによって、そういうスピーキングの能力ですとか、ライティングの活動、そういうところが組み込まれておりますので、教科書を進めるとそ、ういうところも力をつけることができるのではないかなというふうに考えております。そのようなところが、この教科書の優れているところではないかなというふうに考えております。では続きまして、Aの方の教科書について、先日お話したところも含めた新しく調査でわかったところも含め、お話をさせていただきたいと思っております。

Aの方も3年生の教科書をご覧ください。表紙の青い教科書でございます。

これもまず、題材の選択や構成等のところで、見通しを持って学習に取り組めるように、ユニットの初めにゴールが明確に示され、学んだ内容を生かして、4技能を生かして、統合的に活用しながら取り組めるユニットアクティビティが設定されているということで、まず、教科書の9ページ、ユニット1のところ、一番最初のページをご覧ください。

ここに、この単元の目指すところ、ゴールが、例えばこのユニットでは、日本のポップカルチャーの魅力について、経験や感想とともに伝えることができる、これを目標に学習を進めていき、最後の16ページに、ユニットアクティビティというところで、日本のポップカルチャーの魅力を伝えようということで、この最初に書いてあったゴールと最後のユニットアクティビティの活動が合致しているということです。この教科書を進めることによって、そういうところができるようになる仕組みになっております。

また、このユニットアクティビティも、そのQRコードから読み取るとシートがありまして、そのシートの中に、自分タブレット等で打ち込みますと、そのまま思考ツールといいましてけれども、思考ツールが完成されて、そのポップカルチャーについて良いところを伝えることができるような設定になっておりますので、これも教科書を進めるだけで、他に色々活動考えなくても、そのままこれがユニットのまとめとして使えるということになっております。

その辺が、この教科書の、特に優れたところではないかなと思っております。

また、ちょっと順番が前後しますが、6番、その他のところで、現在の教科書の批判の1つで、現在もこのA社の教科書を使っていたんですけども、このA社、現在、教科書の令和6年度までの教科書の一番大きな批判は内容が多すぎると。特に1年生の方は、小学校の復習もしないといけないですし、それからそれに加えて新しい内容、内容も前回の学習指導要領よりも内容が増えておりますので、それをギュッと1年生の中に凝縮したような形になっておりまして、なかなか1年間で、教科書も覚えるのがやっとなで、その他のもっと本当に力をつけたい話す活動だとかいうのがなかなかできていかないという声が上がっており、それも私も聞いておりましたので、それをA社の方も聞かれたんだと思いますけど、随分スリムになっております。

スリムって聞くと、一見、内容が落ちたんじゃないかというふうなことも思われるかもしれませんが、そうではなくて、逆に教える側からするとやりやすく、学習者からもすっきりして、何をすればいいのか、何を学習すればいいのかっていうのが割とわかりやすい教科書になっておりまして、1年生の教科書では、単元が1つ削減されております。

それから、2年生の教科書では、元は現行の教科書では126ページだったものが、108ページ、それから3年生の教科書では、114ページだったものが、100ページまでとなっておりますので、随分スリム化されて、内容自体はもちろん変わりはありませんけれども、ページ数が減ったことで、教える側としても、随分やりやすくなったのではないかなというふうに考えております。それ

が、新しく調査して分かったところです。

それから、3番、興味・関心への配慮等ですけども、この教科書はデジタルコンテンツ、先ほどのヒアリングもそうでしたけども、このA社の教科書もQRコードを読み取って、そこから1人で学習できると。ただ、A社の方が、QRコードなかなか開けないと思いますが、例えば11ページ、ユニット1のパート2のところのQRコードを開きますと、そこに教科書の右側にNew Wordsが4つであります。それが音声で流れてきます。I社の教科書にはそういう機能がありませんで本文だけでしたので、このA社の教科書は単語も読んでくれるということですので、本当に自分でちょっと今日欠席して今日は英語の授業はあったけども、どこをやったかなっていうようなときに、自分でタブレットとかスマートフォン等があれば、自分で勉強ができる、或いは、もちろんこの教科書本文も流れてきますし、それから教師用のデジタル教科書には現行の教科書に入っておりますが、この新しい教科書には、この生徒の教科書にも解説動画といって、専門の方が5分ぐらいの文法についての動画で説明をしてくれます。そうすると、今日はこんなことを勉強するんだなっていうのが見てわかるので、1人で勉強することも可能である、或いは、授業でちょっと勉強したけども、ちょっと分りにくいなっていうときには、そういうものを見て、自分のペースで勉強もできるということですので、そういうところ、5分程度でするので逆にあまり長いとなかなか日々見ていくのは難しいんですが、5分程度ですね、授業の中でもこれで説明をするというように有効に活用しておられる先生も多いようですね。今回は、そういうコンテンツが生徒の教科書にも入ったことで、自分で勉強できるということになっています。

以上のような結果を踏まえまして、3人で協議をしました。

もちろん、Iの教科書も先ほど言ったような、よい点はたくさんありましたが、小中の連携も踏まえて考えますと、小中連携というのは、そこに2番に書いてありますが、1年生ユニット4までは小学校との接続を意識し、コミュニケーション活動が取り入れられるように工夫されている。また、年生の教科書を見てもらえばわかります通り、これも先日もお話をさせていただきましたが、1年生の教科書には小学校で学んだ単語みたいなところが、右側のところに各ページ出てきていますので、これは小学校でやった単語なんだなっていうのが、教える側も、それから生徒の方もわかりますので、そういう点は小中の連携という点では、すごく優れた教科書ではないかなというふうに考えておりますので、そういう点を総合的に考えて、調査員3人で、Aの方がより優れているのではないかなという結論に達しました。

以上です。

会長：それでは、先ほど、2社の教科書の比較というところで説明をいただきましたけども、委員の皆様からご質問、或いは、意見がありましたらお願いいたします。
どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

委員：前回の選定に必要な資料の中に、確かD社も優れているとあって、3社が2社になっているのはどういった理由なのかなということ。あと、今回の資料の総括のところで、現行の教科書に比べてスリム化されたということで、それが、説明があったように今回、特にということで理解してよろしいでしょうか。

調査員：はい。

先日お話をしたときには、もう1つの教科書がDの教科書だったでしょうか。

委員：D社です。

会長：前回の終了のときにこの2社について調査をさせていただいて報告をいただくということで確認をさせていただいて、調査研究を依頼しておりますので、今回の2社というのはこちらからの指示ということでご理解いただきたいです。

委員：大変失礼しました。

会長：2番目の方の回答をお願いします。

調査員：量についてはやはり、特に1年生の授業の中でたくさん分量があり、その情報量も多いので、生徒たちはこの教科書その現行の教科書を見たときに、どこがポイントになるのかっていうのがわからず、どこを勉強していいのかっていうのがちょっとわかりにくいところがあり、単語も多く、文章の量もたくさんありましたので、そういうところを随分スリム化されたのではないかなと思います。

委員：スリム化はされていますけれども、必要な内容も押さえられているということですか。

調査員：もちろん学習指導要領に載っているような、必ずしないといけないところは、もちろん載っております。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：確認ですが、前回AとIで、A社が3人の調査員さんの中で、A社のお1人、I社お2人みたいなお話であったと記憶していますが、今回再調査をされて、結果的にはA社が、3名ともA社がよろうということになったという認識でよろしいでしょうか。

調査員：はい。

委員：ありがとうございます。

委員：すいません。先にI社の説明を聞いたら、ここすごいなという説明を受けました。

学年を通して、すべての学年を通して単元のストーリー性、4人の登場人物、それからデジタルコンテンツの充実、それから双方のやりとりができるレッツトーク、それから学年の最後に学び方とか、それからデイリーライフみたいなのところもあって、そして、その他のコミュニケーション重視というところで、これやはり、コミュニケーションツールとしての英語っていうところがあって、これすごいなと思いました。

A社をまた説明受けたら、A社もやはり、そういうすごいところがいっぱいある。

最後、小中の連携で、やっぱり決め手になったということがあったんですが、総括の中には、A社のところは、各単元のゴールという形で特に優れている。それから、取り上げられている現代的な、国際社会における重要な課題ということ。小中連携っていうところは入ってないんですが、A社、G社で結局、今度はいっぱいの中からではなくて、2つを比較してやったとき、皆さんがA社になる最大の決め手は何だったんだろうなと思ったんですが、先ほど説明では、小中の連携がっていうところを言われたんですが、ここに今その記載はないので、これがやっぱり決めたというところがあれば教えてください。

調査員：正直、現行の教科書に対する批判もありまして、その批判の一番の理由は、やはり分量が多いこと、なかなか1年間でこの教科書を終えるのがやっとみたいなのところがありましたので、そういうところを削減をされたのが6番のその他の2番目のところ、現行の教科書に比べて内容の処理が図られておりっていうところが一番の作業が決めたところ、あります。

委員：：そうすると、I社は、ちょっと分量はまだ多いという意味ですか。

調査員：いえ、I社も分量的にはA社とは変わりませんけども、同じぐらいの分量だとしたら、内容的なと

ころ、或いはその総括に書いてある、そのゴールが示されているところですか、その話題の取り上げ方なんかを見ると、或いは小中の連携のことを考えると、Aの方が優れているのではないかなというような結論に至りました。

委員：わかりました。

会長：保護者委員の皆様、教科書を見る機会ってのは多くはないと思うんですけど、今回この2社、比較して見られて、正直なところのご意見とか感想あったら、どうぞ。

委員：すいません、ちょっとなかなか第2回もちょっと出席できませんでした。

私、子どもが4人おまして、どうしてもうちの子たちも英語はすごく苦手意識というところがありまして、パッと見さしていただいて、本当に先ほど説明をお聞きして、どちらもすごくいいところなんですけど、本当に保護者目線で、Iの方がすごく見やすいのかなっていう、ちょっと文字が大きくて見やすいかなっていうところが第1印象です。

配置なんかも、Iの方が入りやすそうな感じではあります。

会長：1ページの構成というんですか、先ほどおっしゃった配置、それから、それを文字とか、写真とか絵とか、そういうことの配置のことであつたかと思いますが、その辺は何か議論になったところがありますか。

調査員：確かにこのAの方はちょっと文字が小さいなという意見もありましたが、それ自体で、優劣をつけるような材料にはなりませんでした。

委員：私が中学生の頃も多分、この教科書ではなかったかと思います。そのときから比べると、確かにすごく現在っぽくて読みやすい。小学校との連携の部分が、多分、今の英語の授業の中ですごくポイントになってくるんじゃないかなというふうに思っています。小学校で、やっぱりちょっと苦手意識が多くなって、英語でのコミュニケーション、家庭内で使う、使わない、あると思うんですけども、その部分が、苦手意識を克服しようと思うと、コンテンツがやっぱりある程度入っていないといけないっていうところだと、単語を今、すぐデジタルで聞いて、QRを読めばしゃべってみたいところが正直あつたりするんですけども、こうやってパッと、特に1年生の教科書なんかは、Aの方を見ると、これには小学校自体の単語が出ているっていうところは、わかりやすいのかなと思いました。

多分、みんな分かると思うんですけども、あとは訳の部分は多分、QRとかないと出てこなかったりするとこあるんですけども、その部分はやっぱりこれからの、特に1年生の入り、中学校入っていきなり挫折をする一番の課題になるんじゃないかなと思ってまして、その部分が30数年前に比べたら大分改善されているというところは、A社のいい部分かなと思います。

かといって、このI社のものが、確かに、今、ぱっと見ると読みやすいのかなっていうところが、正直ありましたので、この部分、あとは教える先生方が教えやすいのかどうかという部分と、振り返りをしながら、英語にもっと入っていかないといけないっていうところが、これからポイントになると思います。

あと、I社の、コミュニケーション重視というところで、これから高校入試も変わってくるじゃないですか、今年度から。こういった面接とか、ああいうところ重視が必要になってくると、英語だろうが日本語だろう、コミュニケーションが非常に重要なツールだと思って、その部分は、もしA社ということになりますと、この部分は、あとは先生方の腕が必要なのかもしれないし、I社ということになれば、I社はその部分がすごく充実しているということは、これからの高校入試、それから先の社会人というところで重要なと思ったんですけども、コミュニケーション、A社の方のコミュニケーションという部分は、どんな感じなんでしょうか。やっぱりパッと比較すると、I社よりも若干、不足するのかな、どうなのかなと。

調査員：不足するとまでは思っておりませんが、確かに内容的には、A社の方が特にその社会と繋がるような或いは地域と繋がるような題材、例えば、今この3年生の教科書でいきますと、絶滅危惧種の話ですとか、防災についての話ですとか、そういうものが題材として取り上げられていますので、その専門的な単語等も多少、出てきますので、そういう面での難しさはあると思いますけれども、ただ題材的なところを考えると、身の回りのコミュニケーションもちろん、この教科書への教科書も、1年生、2年生或いはもちろん3年生でもできますし、そういう社会に繋がっていくことってというのは、英語を通していろんなことを考えて繋がっていく、或いはその教科横断的といえますけれども、教科を超えて、例えば防災のことですと、総合学習なんかとも繋がっていきますので、そういうものも兼ねて、合わせて勉強できるという仕組みにもなっておりますので、そういう、先ほど言われたようにこのAの教科書が、全然コミュニケーションがこの教科書を使うとできないというわけではないと思います。

委員：小中連携のところがやっぱ重大じゃないかというご指摘あったんですけど、それはもう先ほど説明の中にもありましたけど、やはりこの構成というか、ユニット4までがそういうふうな意識づけで、ユニット4というと1学期分ぐらいでしょうか。

調査員：そうですね、1学期の終わり、2学期の初めぐらいまでだと思いますので、そういうところが、特に、小学校にも英語が入りまして、小学校では特にコミュニケーションを重視して話す活動、或いは聞く活動を主にやるんですけども、中学校の方では文字も当然ながら入ってきますのでその辺の難しさ、教える方の難しさですね、学習者にとっても難しさもありますけれども、そういうところをきちんと教科書でカバーしてありますので、そういうところはこのAの教科書の優れた点ではないかなと考えています。

会長：他の委員さん、何かご感想とかでもよろしいですが。

委員：内容とかも、皆さん詳しくおっしゃられたのですが、一つだけ思ったのが、I社の方がストーリー性があるということで、仮にもしI社を選んだ場合に、2年生、3年生は今の教科書が変わるということで、その時に、2年生3年生は戸惑いがあったり、ちょっとやりにくいなとか、そういうことを思ってしまうのか、ということが気になりました。

会長：どうですか、途中で教科書が変わるということの、何か影響みたいなのが考えられますか。

調査員：やはり、それはあると思います。

当然その文法事項はそう大きく変わるところはないと思いますけども、例えば単語とか、その扱い方ですね、先ほど言いましたこの構成も随分変わって参りますので、その辺での生徒たちの戸惑いも当然ながら出てくると思います。

会長：他に、ご質問等はありませんでしょうか。

ではないようでございますので、報告については以上とさせていただきます。

代表調査員の方には2回にわたって報告いただきましてありがとうございました。

選定協議

英語

会長：それでは、調査報告に基づいての質疑については終了させていただきます、選定協議の方に移らせていただきます。

先ほどの報告の中では、A社、I社と比較した中で、A社の方が特に優れているという報告がございまして、I社の方もいろんな特徴あったということで、ご質問ご意見いただきましたけども、一応、調査報告としては、A社ということでありました。
委員の皆様、このことについての考え、異議等ありましたら、ご発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

会 長：それでは、特に異議なしということでございましたので、教科、英語につきましては、A社に決定することについて、ご承認いただければ、挙手をお願いいたします。

会 長：ありがとうございました。

では、挙手全員ということでございます。

教科、英語につきましては、A社に決定をさせていただきたいと思います。

では、本日決定すべきものについては以上となりますので、採択協議会の選定結果等について事務局からご説明をお願いします。

その他

事務局：それでは審議をいただきましてありがとうございました。英語の方は、A社ということで選定いただきましてありがとうございました。

本日の結果につきましては、前回のところでもお話をさせていただいておりましたように、今月中のところで各教育委員会の方で、承認を得ていただきたいと思います。承認を得られました場合には事務局の方までご報告の方いただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

会 長：それでは本日、第3回目ということで1教科のみの協議となりましたけども、2回目、3回目を通して、出雲地区としての結果を得ることができました。

委員の皆様には、2回にわたってお出かけをいただきまして、本当にありがとうございました。

では、協議事項については以上で終了させていただきまして、進行を事務局の方にお返しいたします。

事務局：はい、ありがとうございました。

それでは最後に、その他につきまして説明をさせていただきます。

事務局：それではお手元の資料の一番最後、8ページのところをご覧いただきたいと思います。

先ほど教育委員会の教科書採択のことをお話ししましたが、1のところですね、委員教育委員会の開催予定ということで日にちを載せさせていただいておりますが、こちらでよろしかったでしょうか。

事務局：はい、ありがとうございます。

2のその他のところでございます。

今後の日程についてというところでございますが、本日のこの協議会を受けまして、改めまして教科書の採択の理由書ですね、現在、英語を除いたものを各市町の教育長様あてにお送りさせていただいておりますけれども、英語を含めたものを改めてお送りをさせていただきます。

こちらにつきましては、日にちがない中で恐縮でございますが、今週の金曜日、9日までのところで修正点等ございましたら事務局の方までご連絡いただきたいと思います。

修正したものを再度お送りいたしまして、最終確認を16日までのところをお願いしたいと思います。

それから、議事録の方ですけども、本日、前回の第2回の議事録の方をお手元の方にご用意をさせていただいております。内容等をご確認いただければと思いますけれども、中に黄色で網掛けを

している部分でございます。確認用ということで、委員の皆さん方のお名前ですとか、それから調査員の名前であつたりとかいうところが入っております。実際、公表にあたっては、この部分はすべて委員ですとか、代表調査員というふうに、書き換えたもので公表するということになりますので、確認用で名前が入っているということで見ただけであればと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議録も速やかに作成をいたしまして、お送りをしたいと思っております。

これも含めまして、16日までのところでご確認をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

30日のところで結果について公表ということでございます。

では、それぞれ教育委員会が開催されるまでのところで理由書の方の最終版というものをお届けしたいと思っておりますが、一番早いところが奥出雲町さんかと思えますけれども、16日とかでも大丈夫でしょうか。

委員：はい、大丈夫です。

事務局：では、そのところでお送りしたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

採択の公表については前回お話したところと同じでございますけれども、8月30日、10時を予定しております。

以上でございます。

事務局：その他につきまして、皆様方からご質問があればお受けいたしますが、ありますでしょうか。

その他、全体を通して何かご質問があればお聞きいたしますが、いかがでしょうか。

それではないようでしたら、以上をもちまして第3回の出雲採択地区教科用図書採択協議会を終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。